

認定外科医 Q&A

1. 提出する論文につきまして、英文医学雑誌に査読の結果受理されたのですが、申請時に出版されていない論文につきましては、受理された論文と受理の通知を添付することで、小児がん認定外科医の認定のための論文としてカウントできますか？

A. 施行細則第7条に記述されているように「掲載された論文」としております。申請年3月31日までに発刊・発行済みのもの（online journal を含む）に限ります。ただし E-pubとして公開されているものは正式な発表なので認められます。

accepted については不可です。

accepted後に受理通知があるのみの状態は不可ですが、journal公式サイトに'E-pub ahead of print'として掲載された時点で認められます。

2. 以下の資格（外科専門医、小児外科専門医、がん治療認定医）の認定期間の期限が切れます。現在更新申請中ですが、小児がん認定外科医の申請は可能ですか？

A. それぞれの資格の更新中であれば申請可能です。ただし更新終了後に新しい認定証のコピーをお送りいただいた段階で小児がん認定外科医に認定します。この場合、当該（申請）年度の4月に遡って認定いたします。

3. がん治療認定医に新規に認定される見込みです。申請は可能ですか？

A. はい、がん治療認定医に認定の見込みであれば申請可能です。ただし認定後に認定証のコピーをお送りいただいた段階で小児がん認定外科医に認定します。この場合、当該（申請）年度の4月に遡って認定いたします。申請時にがん治療認定医の番号が未定の場合は、9999 と入力してください。なお、がん治療認定医に何らかの理由で認定されなかった場合には、小児がん認定外科医の認定も認められません。

4. これまでの異動が多かったため、履歴書の職歴の欄が足りません。

A. 外科医としての経歴を記していただくことが目的です。短期間勤務しただけの職歴は割愛していただいて構いません。なお、臨床経験記録に記載した症例を経験した施設の職歴は必ず記入して下さい。

5. 学術業績の小児がんに関する学会発表とは基礎研究も含みますか？

A. はい、小児血液・腫瘍学に関連したものであれば基礎研究に関しても含みます。

6. 学術業績の小児がんに関する論文は、peer review がある雑誌に限りますか？

A. いいえ。小児がん認定外科医の新規申請や更新では、商業誌の総説などの依頼原稿も対象となります。小児がんに関する論文であるかどうか、個々の審査は専門医制度委員会が判定します。該当するかどうか迷う論文が含まれていたら、念のため予備の 4 件目、5 件目を記載されることをお勧めします。

7. 臨床経験記録に記載できるのは最近の 5 年間の症例に限りますか？

A. 新規申請では過去に経験した手術症例すべて（初期臨床研修医の期間を含む）記載可能です。更新申請では直近の 5 年間になります。ただし、NCD登録症例に限ります。

8. 臨床経験記録に記載できるのは、小児血液・がん学会研修施設での手術に限りますか？

A. いいえ。どの施設でも、小児がんに関する全身麻酔下手術であれば対象となります。ただし、NCDに登録されている必要があり、また、症例の確認を行うことがありますので、施設指導医名を明記してください。

9. 臨床経験記録の悪性腫瘍摘出術に準ずる良性腫瘍摘出術とは、小さな皮下腫瘍摘出も含みますか？

A. 悪性腫瘍摘出術に準ずる良性腫瘍摘出術に皮下腫瘍摘出術は含みません。その他、個々の手術が該当するかどうかは専門医制度委員会で判断します。該当するかどうか迷う症例が含まれている場合は、念のため予備の 21 から 25 件まで記入されることをお勧めします。

1 0. 全身麻酔下手術には中心静脈カテーテル挿入術や針生検を含みますか？

A. はい、含みます。ただし、中心静脈カテーテル挿入は埋め込み型カテーテルやポート型カテーテルに限ります。末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）は含みません。

1 1. 臨床経験記録で「学会疾患登録 ID または施設内 ID」とありますが、施設内 ID とは何を指しますか。

A. 第三者が症例を特定できる番号という意味で、「学会疾患登録 ID または施設内 ID」と規定しています。施設内 ID とは、症例と連結させるための施設内で独自に決めたIDを想定しています。症例について問い合わせる場合がありますのでIDは控えておいてください。

1 2. 新規申請の臨床経験記録の執刀医または指導助手として腫瘍摘出術 1 0 例には生検・部分切除も含めることができますか？

A. はい、含めることが出来ます（針生検も含む）。ただし、新規申請では腫瘍摘出 10 例に含めることが出来るのは執刀・指導助手で、それ以外の残り 10 例には助手でも申請することが可能です。

1 3. 新規申請の臨床経験記録の執刀医または指導助手として腫瘍摘出術 10 例うち 5 例は悪性腫瘍全摘・亜全摘術を必須条件とするとありますが、転移巣摘出も含みますか。

A. 悪性腫瘍全摘・亜全摘術は原則として原発巣の摘出術を想定していますが、転移巣（肺転移、リンパ節転移など）摘出でも申請可能です。ただし、内容については悪性腫瘍全摘・亜全摘術に準じる手術かを委員会で審議し、認められない場合や、手術内容について問い合わせる場合があります。